

まくらのそうし
枕草子

せいしょうなごん
清少納言

うつくしきもの

うつくしきもの。瓜うりに描かきたるちごの顔。雀すずめの子の、ねず鳴き
するに踊おどり来る。二つ三つばかりなるちごの、急ぎて這はひ来る道に、
いと小さき塵ちりのありけるを、目ざとに見つけて、いとをかしげなる
指およびにとらへて、大人おとなごとに見せたる、いとうつくし。頭かしらは尼あまそ
ぎなるちごの、目に髪かみのおほへるをかきはやらで、うち傾かたむきて物
など見たるも、うつくし。【第一四五段】

(口語訳)

かわいらしいもの。瓜に描いてある幼児の顔。雀の子が、(人が)
チュッチュツとねずみの鳴きまねをすると、踊るようにしてやって
くるの。二、三歳さいくらいの幼児が、急いで這ってくる途中とちゅうに、と
ても小さいごみがあったのを目ざとく見つけて、とても愛らしげな
指でつまんで、大人たちに見せているのは、本当にかわいらしい。
頭は尼そぎの子が、目に髪がかぶさっているのをかきあげもしい
で、首をちよつとかしげて物など見ているのも、かわいらしい。